

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立緑ヶ丘小学校
校長 龍花 千鶴

令和6年度 目黒区立緑ヶ丘小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和6年5月18日(土) 午前9時10分～午前10時45分

- ・授業参観
- ・自己紹介
- ・学校経営方針について
- ・令和6年度学校行事について
- ・質疑応答・意見交換

(2) 第2回実施日時 令和6年12月19日(木) 午前11時00分～午後1時45分

- ・授業参観
- ・展覧会鑑賞
- ・後期の教育活動について
- ・質疑応答・意見交換

(3) 第3回実施日時 令和7年2月15日(土) 午前11時00分～午後2時00分

- ・授業参観
- ・学校評価委員会
- ・質疑応答・意見交換

2 参加者

第1回 学校評議員 岡野江里 様、中村愛弓 様、
龍花千鶴 校長、荒田真実子 副校長

第2回 学校評議員 若林研司 様、岡野江里 様、中村愛弓 様、岡田美智子 様、栃木康昌 様、
龍花千鶴 校長、荒田真実子 副校長

第2回 学校評議員 若林研司 様、岡野江里 様、中村愛弓 様、栃木康昌 様、
龍花千鶴 校長、荒田真実子 副校長

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域	◎学校の雰囲気については、概ね高い評価を得ているが、高学年の「学校は楽しい	・学校全体については、今後も活気ある教育活動が展開できるよう、教職員一丸となり	・プラスバンドの高学年児童数が少なくなり心配であったが、外部指導員を招聘し、定

<p>との連携、地域人材の活用などについて</p>	<p>ですか」の設問に対する肯定的評価が昨年度と比較すると6.5ポイント下がっている。</p> <p>◎教職員の対応については四者ともに昨年度の肯定的評価を上回る数値となった。日頃から校長の学校経営方針のもと、教職員が保護者や地域に対して誠実に対応しようとする姿勢をもっていることが要因と考えられる。</p>	<p>取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートや日頃の観察等で、高学年に特有の内面的な困難や悩み等を早期に発見し寄り添っていく。また学級集団、学年集団をよりよくするために、担任一人だけでなく教職員全体で児童を育てる風土を継続していく。 引き続き地域の方とPTAの方のご協力をいただきながら、次年度も児童のためによりよい教育活動を展開できるよう努力していく。 	<p>期的な練習を継続できると聞いたので安心している。中学生も応援していると聞いたので、運営は大変だと思うが子どもたちのために今後とも頑張ってもらいたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑ヶ丘小は、以前から学校全体が落ち着いている雰囲気がある。学校公開で授業を拝見したが、保護者の子どもに対する視線が温かい。子どもも保護者も、学年を超えたコミュニケーションができていのではないかな。
<p>II 教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育目標、時程、教育内容全体について 	<p>◎教育目標や教育内容について、年度当初の保護者会で丁寧に説明し、学校からの配付物等でも触れたことで、保護者からの肯定的評価は昨年度よりも11.2ポイント上昇した。一方で、地域の肯定的評価が大きく下がっている要因としては、「分からない」と答えた方が多かったことが考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標については児童、保護者の間では十分な共通理解が図られている。次年度は地域に向けて学校公開や運動会への参加を呼びかけたり、地域行事での関わりを深めたり等、地域の皆様にも教育目標を理解していただく方策について検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの地域の方々に学校に来ていただき、学校の様子を知ってもらうことが効果的である。住区センターや自治会の掲示板を活用し、学校公開や運動会などの学校行事への案内を伝え「開かれた学校」をアピールしたらよいのではないかな。緑ヶ丘小学校のよさを実際に見て知っていただくことがよい。
<p>III 心の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<p>◎保護者の肯定的評価が昨年度より9.5ポイント上昇した。道徳授業地区公開講座を行い全学級の道徳の授業を公開し、保</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自他を尊重する心をはぐくむための取組を日常的、継続的に行う。 学校全体で児童の心を健全にはぐくむこ 	<ul style="list-style-type: none"> 緑ヶ丘小学校の子どもたちはとても落ち着いていて、優しい子が多い。学校公開で拝見していても落ち着いている。自分のこと

	<p>護者向けの講演会を行うなど保護者への理解を進めてきたことが要因の一つと捉えられる。</p>	<p>とができるよう、教室環境や言語環境を整える。また全校昼会の講話の中でも触れていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」の時間だけでなく各教科等の指導においても、言語的な交流や対話、体験活動などを通して児童の道徳的実践力の向上を目指す。 	<p>だけでなく相手のことも考えて過ごすことができている。この良さをこれからも継続して伸ばしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業だけでなく、具体的な場面を教育活動で増やし、さらに家庭でも話題にしていけばよいのではないかと。
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎保護者の「学校は、子どもの学力の定着・向上のために工夫した授業を行っている」の設問に対する肯定的評価が昨年度に比べ17.6ポイントも上昇している。年間3回の学校公開での授業参観や、学校ホームページで日々の授業の様子を配信することで、保護者の皆様に理解していただくことができたと考える。一方で、低学年児童の「学校の勉強が分かる」と答えた児童が昨年度に比べ4.1ポイント減少している。低学年だからこそ基礎・基本の定着・向上に向けて、さらに分かる授業・楽しい授業の充実が必要である。</p> <p>◎教職員は、学習用情報端末や大型提示装</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度から児童の学校生活を包括的にサポートする学校教育支援員の運用が始まる。学校教育支援員を効果的に配置することで、児童に対してきめ細やかな学習支援を行っていく。 ・教科担任制や交換授業等に段階的に取り組み、教員一人ひとりの教科指導力、授業の質の更なる向上を目指す。 ・次年度は自己選択学習の時間「のびっこタイム」の2年目の取組となるので、児童一人ひとりが身に付けた自己選択、自己決定に係る資質・能力を様々な教科で発揮し、豊かな学びにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制は、ぜひ前に進めていくとよい。教員にとって、1回目の授業よりも2回目の授業は技術が上達し、自分の授業を客観視して次回の授業に活かすことができる。また教科担任制にすることで、教員の働き方改革にもつながると思う。プラスの面が多くある一方で調整が難しい点もあるが、子どもたちの学力向上のためにも教員の心身の健康のためにもぜひ推進してほしい。 ・これからの教員は、ICT機器を使いこなすことが必須となる。学習用情報端末や大型提示装置の操作など、対応が大変かと思うが、子どもたちのためにも頑張っていたいただきたい。

	置等を効果的に活用しながら授業を展開している。		
V 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎昨年度から東京都統一体力テストの結果を踏まえ毎週火曜日に「パワーアップタイム」に取り組んでいる。取組も2年目を迎えて児童にも定着し、特に高学年の肯定的評価が上がっている。また保護者の肯定的評価も昨年度まで下降していたが今年度は13.5ポイント上昇した。児童の意識の向上が保護者にも伝わっているのではないかと考察する。さらに、体力の向上や健康の促進に向けた取組を充実させていく。	・「パワーアップタイム」の取組の効果を教職員間で検証し、次年度に向けてより効果的な活動内容となるよう、体育的行事委員会を中心に検討していく。次年度も引き続き、児童の運動への興味・関心を高め、基礎的な体力の向上を図る。	・体育・健康教育については学校教育全体で取り組んでいかなければならない。体育科は、数字が出やすい種目が多く、子どもたちの目標が可視化できるため、具体的な設定がしやすいという利点がある。パワーアップタイムの取組を、子どもたちの前向きな目標とともに活用することは大変よい。
VI 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	◎学校行事の充実については、児童、保護者、教職員共に95%の高い肯定的評価を得ている。行事を通して児童が心豊かに育っていると考察できる。特に保護者からの肯定的評価が昨年度よりも14.1ポイント上昇した。運動会や展覧会などの行事は、コロナ禍前の保護者の参加人数に制限がない状況に戻り、十分に児童の様	・学校行事では、児童が主体的に計画を立てたり実践したりできるように特別活動部を中心に計画を立て、その実践を価値付けるようにする。 ・たてわり班活動を中心に、各教科、学校行事等を通して計画的に異学年交流に取り組み、自己有用感の醸成や共感的な関わりをはぐくむ。	・地域行事についてはコロナ禍が明けて参加の形態が以前に戻りつつあり、関心の高さを感じる。 ・たてわり班活動については、我が子が緑ヶ丘小に通っている時からあった。当時はたてわり班で掃除をし、上級生が下級生の世話をし、丁寧な話を聞いていた。昔も今も小規模校だからこそその和気あいあいとした良さを感じている。

	<p>子を知ることができたことも要因の一つと考えられる。</p>		
<p>Ⅶ 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>●地域の肯定的評価が93.5%から78.1%へ、15.4ポイント減少した。「判断できない」と回答する方が多かったことが考えられる。十分なご理解をいただくためにも「開かれた学校」として町会や住区住民会議の方々と協働して行事を進めることの必要性を感じる。</p> <p>◎保護者の肯定的評価が上がった一方で、児童の評価は低学年が0.5ポイント、高学年が6.5ポイント下がった。いじめや不登校の問題については、引き続き、学校全体で組織的に対応していく必要がある。</p>	<p>・引き続きいじめは絶対許さないという風土を築き、教職員全員で児童の指導にあたる。気になる事案については生活指導部や「学校いじめ対策委員会」を中心に対応等について話し合い早期解決に努める。</p> <p>・不登校の児童については予兆を早期に把握し対応に努める。また家庭との連携を強化し、必要に応じて不登校児童を適切に関係機関につなげ、児童一人ひとりに応じた学びを支援できるようにする。</p>	<p>・緑ヶ丘小学校の保護者の方は、地域から見て大変協力的な方が多いと感じている。地域行事を通して、子どもたちは異学年同士の交流が活発に行われ、また保護者の方からは保護者同士のコミュニティが図れるといった声をもらっている。様々な場面で子どもたちは礼儀正しくて素晴らしいと思う。</p> <p>・学校には行きづらさを感じていても、地域の行事や習い事には参加できるような広い受け皿としての地域の役割と、学校の教育活動とで協働しながら子どもたちをはぐくんでいきたい。</p>
<p><防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎防災教育・安全指導については、概ね高い評価を得ている。特に児童の肯定的評価はいずれも上昇している。児童の防災・安全に対する意識が高まってきている。一方で、安全教室への参加については肯定的評価が減少している。安全教室の意義を今後児童が理解</p>	<p>・生活指導部を中心に、次年度も多様な被災想定を設定し、児童が様々な状況でも迅速に落ち着いて避難することができるように計画する。</p> <p>・地域の方々と連携し、目黒区の避難所運営訓練を協働して実施できるように行事等を調整し計画していく。</p>	<p>・土曜日の授業がある日に地域と子どもたちが一緒に防災訓練等に取り組む機会があればよい。子どもたちには学校が避難所になるという感覚が身に付いていないのではないか。一年に一回は地域の避難所運営訓練に多くの子どもたちが参加できるようにしてほしい</p>

	<p>できるよう説明を行っていくとともに、引き続き毎月の避難訓練を通して、危険に気付き、すすんで安全な行動をとることができるよう、実践的な計画を立てていく必要がある。</p>		と願う。
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎昨年度よりも保護者の肯定的評価が25.7ポイント上昇した。これまで学校ホームページや学校だより等で、みどりがおかこども園や第十一中学校区の3校1園の連携について発信してきたことが反映されていると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3校1園において「つながらる教育で未来を創る」を目指して取り組んできた。新校統合により目黒西中学校区となっても、就学前施設や中学校との円滑な接続や、多様な人との関わりを大切にする取組を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの第十一中学校やこども園との連携について、よい部分は、新校統合となっても引き継いでほしい。中学校区が広がり、目黒西中学校は各学年3学級となるが、新しい連携の仕方を工夫して、子どもたちが安心して中学校に通学できるようにしてほしいと願う。
<p>VIII 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎情報の発信については概ね良好な評価を得ている。学校ホームページの記事の充実や、学校だよりや学年だより等を、C4thHome & Schoolでの適時的な配信をしていることが利便性を向上させていることも一つの要因であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の配布文書はほとんどを電子配信としたことで、ペーパーレスを実現できた。引き続き次年度も配布文書のスリム化に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文書のペーパーレス化で便利な世の中になり、保護者も助かっているのではないか。地域の行事の急な連絡についても、C4thHome & Schoolで配信していただいてありがたい。住区キャンプや花火大会など、実際に子どもの目に触れて知らせたい物については今後も紙での配布をお願いしたい。
<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の教員の自己申告面接や日常の授業観察を活用し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や区内の研修で学んだことを生かし自己の授業力向 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい教育活動を進めるためには教員の研修は必要である

<p>専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</p>	<p>教員の資質の向上を図った。また今年度は互いに授業展開を学び合う機会を設けて授業力の向上を目指した。それらが要因となり肯定的評価は 100%となったと考えられる。</p>	<p>上に生かせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校で教員の数が少ないが、職層を活用して相互に人材育成が進むよう校内 OJT を計画的・効率的に進めていく。 	<p>と思う。教員の激務を考えると研修の時間を多く取ることが難しいかもしれないが、東京都や目黒区の情報を得て、研修の仕方や内容を工夫しながら効率よく進めていきたい。</p>
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎昨年度から本校は「業務改善モデル校」として、学校経営支援組織の活性化と校務分掌組織の最適化を図り、効果的、効率的な業務改善を行ってきた。会議の精選、休憩時間の確実な確保等、業務改善について前進しているという考えがあることが考察できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務改善モデル校」としての実績を生かし、次年度も引き続き教員が元気に職務を遂行できるようによりよい職場環境を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を豊かにして、効率的な仕事の仕方を皆で考えていくことは大切である。教科担任制や交換授業、年次有給休暇の適切な取得など、職場全体をあげて推進していくことに価値があると考ええる。
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎年間 3 回の服務事故防止研修を行い、シミュレーション研修を通して、服務への意識を徹底させることができた。教員の肯定的評価は 100% となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服務事故は学校全体の信用失墜行為になることを認識して職務にあたることのできるよう、次年度も管理職を中心に研修を続けていく。また日頃から話題にするなど意識の高い職場の風土を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計事務が電子システム化されてからは会計事故が減っていると聞けるが、引き続き留意しながら会計作業を進めていってほしい。 ・ストレスの少ない職場の環境づくりも大切である。働き方改革も同時に推進していきたい。